自　己　評　価　票

【自己評価の意義・目的】

○　自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
○　サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
○　この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

【自己評価の実施方法】

○　運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
○　「評価項目」ごとに評価をしてください
○　その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
○　少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
○　優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
○　改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
○　利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
○　評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

地域密着型サービスの自己評価項目の構成

		項目数
Ⅰ	理念に基づく運営	22
	1　理念の共有	3
	2　地域との支えあい	3
	3　理念を実践するための制度の理解と活用	5
	4　理念を実践するための体制	7
	5　人材の育成と支援	4
Ⅱ	安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
	2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
Ⅲ	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
	1 一人ひとりの把握	3
	2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
	3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
	4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
Ⅳ	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
	1 その人らしい暮らしの支援	30
	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ	サービスの成果に関する項目	13
	合計	100

記入年月日	平成　20　年　3　月　10　日
法　人　名	社会福祉法人　太陽社会福祉事業協会
代表者名	理事長　小 林　　茂
事業所番号	２７７３００１０６６
サービスの種　類	認知症対応型共同生活介護
事業所の名　称	グループホーム　サンシャイン
ユニット名	**1ユニット**
所　在　地	**大阪市東淀川区大道南1－12－24**
記入者名	管理者　阪 井　宏 美
電話番号	０６－６３２７－０１１０

自 己 評 価 票

（ ⋯⋯ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営			
	1　理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を掲げている。		もう少し地域と絡んでいく必要もある。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共通の理念を持ち、利用者の対応にあたっている。	○	認知症の方の基本的な対応は、職員全員に行き届いている。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域に対しては、運営推進会議の実施なども行い、地域との連携を図っているが、まだ出来ていない		家族さんなどにも,もっと積極的に伝えていく必要がある。
	2　地域との支えあい			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な、つきあいができるように努めている	挨拶はきっちり行い、サンシャインの職員・利用者であることは把握してもらっている。		気軽に立ち寄ったりができるような付き合いにしていく必要がある。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には参加している。 行事の際に、地元の人々と交流している。	○	行事には参加し、地域の方にも呼んでいただいている。
6	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者へ向けた取り組みはまだできていない。		地域への発信がまだできていないので、運営推進会議などの場を利用し進めていきたい。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が完全に理解しているわけではないが、改善には取り組んでいる。		前年度の評価を基にして改善に取り組む努力を行なっている。
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で頂いた意見を基にしてサービスに生かしている。 地域の行事のお誘いも受け、参加している。		２ヶ月に１度ではないが、 報告は行い、地域の方からの意見も参考にして、取り組んでいっている。
9	○ 市町村との連携 事業所は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の方のために動いている。		利用者の方のために、市町村とは連携を取り、対応を行なっている。
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している	職員については支援できていない。		現在、まだ職員に学ぶ機会は作れていない。 必要な人には活用できるよう、お話を行なったりはしている。

（ ⋯⋯ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待は行なわれていない。 基本的な対応として、いつも話し合い、防止に努めている。		虐待がないように、職員には基本的な対応を学んでもらっている。 充分に注意を払い、防止に努めている。
4　理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている	家族様に納得してもらって同意を得ている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族の意見には耳を傾ける配慮を行なっている。		利用者の意見は、内部では聞くよう配慮しているが、外部者へ表せる機会は作れていないし、難しい。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている	毎月の定期報告の実施 その他、必要な時に個々に報告を行っている。		毎月の報告を行なっている。 今年度より、利用者様の写真を手紙に盛り込み、送付している。
15	○ 運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱を設置している。		苦情箱の設置・第三者評価委員の設置・表示を行なっている。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や職員会議の時に意見を聞き、反映されている。		職員からの意見を聞き、反映できる部分は反映している。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている	たまに１人の時間はあるが、 １人にならないよう配慮されている。		完全ではないが、 勤務時間上、夜間帯以外はなるべく２人以上の配置とし、無理のない人員配置としている。
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の方へ影響の出ないよう、 対応の統一を心がけている。		職員の変わったときなどは、必ず引継ぎを徹底的に行い、利用者様に負担がかからないよう、統一したサービスを行なえる努力をしている。
5　人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のレベルに合わせた 研修を実施。 基本的な認知症の研修に関しては、 日々行っている。		内部研修では、全員に共通の基本的な研修を毎月実施。 外部の研修は個々のレベル・希望に合わせたもので、参加してもらっている
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに参加し意見の交換を行っている。 相互訪問などはまだ行っていない。		グループホームネットワークなどの会員となり、意見交換・交流の機会を設けている。

（ ⋯⋯ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる	以前より休憩時間はとれているが、十分ではない。	○	休憩時間などが取れるように取り組む必要がある。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格手当などの支給を考慮をしている。		各職員のレベルにあった研修などには参加をしてもらい、職員の向上に努めている。職員の面談も行い、希望や声を聞くようにしている。

Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと、支援

1　相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	利用者様の意思・思いを第一に話を聞くようにしている。		誕生日の外出・買い物など利用者さまと共に行き、ご自分で選んでもらったり、希望を叶えるようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族様の意向をよく聞くよう努力している。		必ず家族様への報告・連絡を行い、家族様の意向を大切にし、意向に添えるよう努力している。
25	○初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって必要なものを支援している。		色々な観点から、意見を出し、見極め支援する努力をしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら、工夫している	いきなりはじめることはせず、様子を見ながら開始するなどの配慮をしている。		あくまでも、利用者様の状態に合わせた対応を基本に、家族様に了解を得てから、サービスを提供している。

2　新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

27	○本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様にも助けてもらい、相互に支えながらの関係を築いている。	○	利用者様に出来ることはしていただくことを基本とし、一緒に楽しみながら過ごすようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事など、一緒に参加してもらう機会を作っている。		利用者様の様子を伝え、共有しながら、利用者様を支えるように努力している。
29	○本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	背景を理解し、対応している。		職員などにも、個々の家族様の背景などを理解してもらい、統一してサービスできるよう支援している。
30	○馴染みの人や場との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ケアプランに取り込まれている。		なじみの方々との関係を切らないようにしてプランに取り入れ、支援している。

（ ::::::: 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の関係などにも目を向け、座席の配置などにも気を使っている。		利用者間の関係には配慮し、職員が間に入り対応することで、利用者間もスムーズに関わりあえるように支援している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ、このケースがない		

Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1　一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている.困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ把握できるよう努めているが、認知症のため困難なことが多いので病状に合わせて、利用者中心のケアを検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れることで、今までの暮らしができるだけ継続できるよう取り組んでいる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	表などを使い、把握できるよう努めている。		

2　本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議の後、職員が多いときにケアカンファレンスを行い、時には家族や医師なども交えて、ケアのあり方について、考えている。	○	継続していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの必要が生じた時には、見直しをし、計画に反映するよう努力している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を利用し、努力しているが十分でない面もある。		今後も努力して行きたい

3　多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かして、本人やご家族へ柔軟な支援をしている		

4　本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している	ボランティアには来て頂いている		継続していきたい

（ ⁞⁞⁞⁞⁞ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

項　　目		取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイケアを利用したりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	「ほほえみ」の安心サポートを利用したり、地域包括支援センターに相談したり連携を取っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に２回訪問して頂き、医療を受けている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師の往診を月に２回受け、相談などに応じてもらっている。	○	専門医との連携を図り、診断治療が受けれる体制をとっている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ケアマネが看護師であるため、日々の報告・連絡・相談は円滑に行なわれている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には病院との連絡を取り合って、グループホームでの生活に戻れるよう、情報交換し相談している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態が分かった段階で、サンシャインの方針と、ご家族の意向が合うように、医師を含めて話し合いを持ち、その結果得られた方針を職員にも伝えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている	上記に同じ。又、次の段階としての施設や、病院なども検討しながら探したり、医師から紹介していただいたりしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの生活で使用していた馴染みのものを持ってきていただいたり、習慣などを情報交換し、生かしているが、すべての方にできているとはいえない。		さらに努力して行きたい

（ ::::::: 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
１ その人らしい暮らしの支援				
（１）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けには注意を払い出来ている。 パソコンもパスワードで管理している。	○	個人情報の取り扱いには気をつけている。１人１人の尊厳を大切にした対応で支援している。
51	○利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	まず利用者様に意見を聞き、分からない時は絵を見せたりしている。 まだ、全職員ができているわけではない		職員が事務所などに意見を求める時があるが、主役は利用者様であることを、その都度伝え、利用者様本人から意見を聞いてもらうよう支援している。
52	○日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに時々なってしまう。		日課などがあるため、職員の都合で動いてしまうときがまだあるようだが、バランスを取った対応ができるよう促している。
（２）その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	布団カバーや服などは、一緒に買いに行き選んで頂いている。 美容院などは行けていない。		美容院は訪問美容を利用している。もっと、おしゃれができるよう働きかけたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食時が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューが日々変わるので、楽しんでいる。 一緒に準備は、時々しかできていないが、後片付けは一緒に行っている。		食材に関しては、業者のものを利用しカロリー栄養の偏らないものを、利用している。食事準備は、一緒にできていることが少ない。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	おやつは買い物に行き、選んで頂いている。食後の飲み物などは、３種類の中から選んで頂いている。		現在、酒・タバコは禁止としている。その他の面では、利用者様に楽しんでいただけるよう支援を増やしていきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして,気持ちよく排泄できるよう支援している	支援できている。 排泄チェックも行っている。	○	個人個人の排泄チェックに合わせた対応を行なっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に曜日は決まっている。 時間は特に決まっていないので、入る前に確認してから入浴している。		大まかな曜日指定はあるが、その日に入れなかった場合、次の日に援助するよう指示を出している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	利用者様の行動に制限はしていない。		利用者様が言えない面も考慮し、適度な睡眠をとるように、働きかけたりもしている。
（３）その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全員にはできていない。		個人個人の趣味・好きなことを調べ、プランにあげている。

（ ::::::: 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	買い物時は支払いなどをしてもらう事もある。管理はホームで行っているが、ご自分でできる方は自分で管理されている。		お金の管理は事務所にて行なっているが、買い物時、もっと使えるように配慮していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	要望があれば、散歩や買い物に行くよう支援している。		散歩はいつでもいけるような体制をとっている。
62	○普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日外出という名目で、個人の希望を反映させた外出を実施している。	○	１年に１回だが、誕生日外出の機会を設け、楽しんでもらっている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している	一部の方のみできている。 電話や手紙の支援は、あまりできていない。		出来る方は 手紙などの支援はしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族の方は来園できているが、 知人や友人はほとんどない。		知人・友人のいる方は、気軽に来てもらえている。家族さんなどは来てもらったときに、お部屋でくつろいでもらっている。
	（４）安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		職員全員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。		入り口のドアが開くと、音が鳴るようになっている。鍵はかかっていない。
67	○利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している	様子観察を行い、プライバシーの配慮も殆どできている。		基本的なところを大事にするよう職員には指示し、配慮できるよう支援に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	リビングの洗面台の洗剤は、必要時以外は保管している。		ヒヤリ・ハットなどを活用し、事前に話し合い、対応に心がけている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットなどを利用し、学び再発防止等に取り組んでいる。		事故報告などカラ、改善策を考え再発防止へ向け、職員一同が統一した意識で取り組む努力をしている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている	新しく入った職員もいるので、 技術的な訓練ができていない職員もいる。		定期的な訓練の実施を行なっている。新人に対しては再度必要。

（ ::::::: 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設内での防火訓練は行っているが、地域の人々への働きかけはまだできていない。		地域の 消防の方にも、意見を求め、災害時の訓練を行なっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	実施できている。		リスクが考えられる場合、家族様にも報告を行い、話し合いのもと対策を考え、同意を得ている。
	（５）その人らしい暮らしを続けるための、健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	大体できているが、申し送りに抜けのある時がある。	○	申し送りの抜けはまだあるが、 その都度、注意を行い、意識づけを行なっている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	一部は理解しているが、理解していない職員もいる。	○	連絡はしているが、意識が低く、 理解していない職員もいる。 理解してもらうよう、情報を流したり働きかけは行なっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分摂取量のチェック ・散歩・体操に取り組んでいる。		何度も声かけ行い、実施している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている	朝と夕の１日２回行っている。 週１回の訪問歯科を受診し、その都度指示を仰ぎ、支援している。		完全にはできないが、利用者様と一緒に取り組むようにしている。
77	○栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量をチェックしながら、必要量を飲んでもらうよう提供している。		食事・水分チェックは毎日行い、 食べやすいように配慮したりしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している （インフルエンザ疥癬,肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症に対しても、毎年情報を 流し、完璧ではないが、実行している。		予防・対応を決め、職員に統一の指示を流しているが、できる人と出来ない人がいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生区域を分けている。 調理用具の衛生管理は日々行っている。		衛星区域を分けている。 各職員に管理してもらっている。
	２ その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
	（１）居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	もう少し工夫する必要がある。		入口が細い路地のため 少しわかりにくい位置にあるので、 もう少し配慮が必要。

（ ::::::: 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・壁には季節を味わえるような装飾をしている。		ゆったりとした雰囲気作りをつくるよう心がけている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをおき、好きな時に座って頂き、お話しをされたりしている。		間取り的に１人になれるスペースはないが、ソファなどでくつろいでもらっている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様のものを持ち込んで頂いている。		入所時、利用者様のものを持ち込んでもらっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめに行っている	温度調整・換気は適度に行っている。	○	温度・湿度には気をつけている。

（２）本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	○身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している	バリアフリー・手すりなどがついており、安全に自立した生活が行える。	○	バリアフリー・手すりのつくりとなっている。利用者様の靴は介護用の靴の使用、足の不自由な方は、杖の利用をしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	色々なレクリエーションなどをする中で、さりげなく介助にまわり、できることは皆様にして頂いている。		出来ないところは無理強いせず、介助したり、出来るところをしてもらうよう働きかけている。
87	○建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには少し出て、日に当たるなどできるように、ベンチをおいている。		屋上にはベンチを置いている。 屋上をもう少し活用していきたい。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目			
項　　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①　ほぼすべての利用者の ②　利用者の２／３くらいの ③　利用者の１／３くらいの ④　ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①　毎日ある ②　数日に１回程度ある ③　たまにある ④　ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごせている	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができている。	○	①　ほぼすべての家族と ②　家族の２／３くらいと ③　家族の１／３くらいと ④　ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	①　ほぼ毎日のように ②　数日に１回程度 ③　たまに ④　ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①　大いに増えている ②　少しづつ増えている ③　あまり増えていない ④　全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①　ほぼ全ての職員が ②　職員の２／３くらいが ③　職員の１／３くらいが ④　ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	①　ほぼ全ての家族が ②　家族等の２／３くらいが ③　家族等の１／３くらいが ④　ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入してください。）

基本的な認知症の方の対応の統一・徹底・指導を行い、利用者様が安心して暮らせるよう配慮している。また、できるだけ、散歩に行き、水分をきっちりとってもらい、体調の管理を行なっている。